

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 令和7年度松川町地域包括支援センター運営協議会
令和7年度地域密着型サービス運営委員会
- 2 開催日時 令和7年9月29日 午後6時30分から午後8時30分まで
- 3 開催場所 松川町役場2階大会議室
- 4 出席者氏名
委員（敬称略）
北原ますみ（会長） 西岡将宏（副会長） 宮下明 柳原猛 谷川博昭 栗畑孝弘 小木曾茂
清水 祐一 幸村美佐江 今村佳奈子
事務局
塩倉智文 田中裕香 北沢百合子 宮崎奈保美 竹重瑞恵
- 5 議題（公開）
地域密着型サービス運営委員会
（1）地域密着型サービス等の指定等について
（2）質疑応答
地域包括支援センター運営協議会
（1）令和6年度実績報告
（2）令和7年度事業計画
（3）収支概要について
（4）質疑応答
- 6 非公開の理由（介護を非公開とした場合） —
- 7 傍聴人の数 0人
- 8 会議資料の名称
・令和7年度松川町地域密着型サービス運営委員会及び
松川町地域包括支援センター運営協議会 次第
・松川町地域密着型サービス運営委員会資料
・松川町地域包括支援センター運営協議会資料
- 9 会議の概要
（1）開会
（2）会長・町長あいさつ
（3）協議事項（進行：会長）
地域密着型サービス運営委員会（事務局）
①地域密着型サービス等の指定等について
事務局説明
質疑応答
なし

地域包括支援センター運営協議会
①令和7年度組織体制、令和6年度実績報告、介護保険認定状況について
事務局説明
質疑応答

委 員 高齢者の介護予防事業について、いきがいデイサービスや体操教室など色々やられているが、費用が圧縮されたとか介護の方の人数が減ったなど事業の効果についてデータがあれば教えてほしい。

事務局 介護費用に関してすぐに結果が出るものではないが、認定率については現在 16.0%で国や県と比較して少ない状況です。

今年度、新規事業として行っている認知症予防講座も参加前と参加後にどのくらい認知機能が上がったか評価を行っている。「楽しかった」等の感想だけではなく本当に効果があつたかどうかについて丁寧にやる。また今回のような機会に事業の評価について発表出来たらと考えています。

効果について二、三年後に出てくるがストレッチ教室と背骨ストレッチ教室については、背中が曲がっていたり腰痛が常にあるという方が参加されており、教室の参加前後の写真を撮ったり、痛みが減ったという声も聞く。

社協に委託しているコミュニティカフェも年に 1 回評価を行っているが見える化できていないので出来るだけ早い段階で事業の評価については見える化していきたい。

委 員 任意事業の中の緊急通報装置について通報の仕組み等をもう少し聞きたい。合わせて GPS はどのように身に着けているのかといったことも教えてほしい

事務局 緊急通報装置については固定電話がある方が設置できる機械。登録の際に 3 名まで通報先を登録でき、24 時間センサーの反応がないと松本の委託業者に通報が行き、業者から支援者に連絡が行くという仕組みです。

支援者に連絡がつかなかった場合は包括支援センターに連絡が来ます。去年は 2 件の通報があり、早期発見が出来たという事例も今までに何十件もあります。登録の促しは主にケアマネさんたちが一人暮らしの方に対して行ってくれています

GPS については、バッグとか帽子とか靴に縫い付けておくがそれを身に着けてくれないと探すことが難しいため出来る限りそれを持って行くように他の物を少し片づけたりしながら支援することもあります。

どこにいるかは家族がスマホで見られます。

委 員 私は前職で NTT ドコモさんと一緒にそういう見守りケータイの事業に関わっており、実証実験を他県でやったことがあったんですね。

やはり携帯を皆さんが使えるかどうかということに依存するので簡単ではなかった。また一番問題だったのがその装置を誰がコスト負担するのかといった議論があった。今回の場合の通報装置の他の緊急通報とか GPS とかは、ご本人やご家族の負担で導入してもらうのですか。

事務局 ほぼ町で負担しているという状況で課税者の方で月に 308 円ご負担いただいています。

委 員 重層的支援について、重層的支援の取組をすることで、こういう方を支援できるといった具体的な話を話せる範囲で教えていただけないでしょうか？

事務局 重層的支援体制とはひと言で言うとこれまでの支援に係らなかった人を横のつながりで支援していく体制のこと。

これまでは勇気を出して町に来てもらわなければ把握できなかった方がはなぶさに来たことから SOS を拾えることがある。自分が支援した方の中でもはなぶさハウスがあることで

支援につながったことも多い。

委 員 はなぶさハウスは当事者が自分で見つけるのか利用者の声などが広がっているのか

事務局 ひきこもりの方を訪問する中で、はなぶさハウスを紹介したり社協にも協力いただいている

委 員 直接相談窓口というとはつながらないが、はなぶさに来てもらうことで相談につながるということですね。

事務局 その他には、飯田市のまいさぼなどを通じ、県社協と町社協が共同してプチバイトの事業を通じて就労支援を行っている

委 員 緊急通報装置の実績の方以外に心配な方がどれくらいいるのか。

事務局 今使っている人はケアマネがついている人がほとんどだが、発見できていない方は多い。今年度掘り起しの準備をしている。どうアウトリーチをするか、民生委員さんとも協力して行っていたきたい。

委 員 地域密着型運営委員会の資料に戻るが通所事業の利用が低下しているが重要な社会資源であるので倒産等により使えなくても使えないというのは困る。現状把握等について共有する機会等はあるか

事務局 運営推進委員会等で利用状況を聞くなかで包括が支援に関わる方については小規模な施設が適している場合に見学に行ったりしている。施設を紹介するのはケアマネなのでケアマネにとって家族に紹介しやすい施設が選ばれる。

地域密着型の中の通所サービスといいますと、町内の事業所では確かに以前は空きが全然ないっていうくらい一杯で希望しても入れないというようなことが多かったのですが、なかなか集まらないというのは運営推進会議の際などにお話をお聞きしています。

包括支援センターの職員も参加したりすることで、情報共有し、包括の職員や、支援に直接関わっている方で大きなところよりも小規模なところを検討されている方についてはご紹介したり、見学のお手伝いをさせていただいたりしています。

通所サービスなので、町というより、ケアマネージャーさんたちが、利用者の方にとって使いやすいか、ご自分が紹介しやすいかっていうところで選んでいかれると思うんですけども、空き状況等は各事業所がケアマネさんたちに FAX なりメールなり文書なりで随時出しておられると思いますので、そういった中でここ適しているというところも選んでいただいております。また、施設とケアマネさんが集まる機会っていうのを町で設けたりっていうところはないですけども、日々の活動の中でケアマネさんが事業所の方と話されたりして、ここまではこの方かなっていうふうなところを作り上げているというのが現状だと思います。

委 員 地域社会の重要な社会資源なので生かしていきたいですね。施設傾向が強くなると介護保険料にも反映されますので、継続的なネットワークというか、話ができるといいかなと思っています。

委 員 包括の事業について昨年からの利用状況はどうか。

事務局 コミュニティカフェが 13 名、デイサービスも 15 名増えています。

男性の利用が増えるようコミカフェで行っている麻雀教室などかなり工夫して行っている。

教室に来ていない人を支援につなげる方法を検討している。新たな人を発掘するというのが町の課題である。

今年度実施する高齢者実態調査などでもターゲットを絞るなど検討中です。

会 長 緊急通報装置についても GPS にしても、高齢者宅を訪問する時にいろいろ言葉をかけたりしなければいけないなど改めて感じました。

また民生委員会の中で、今の課題になったことなんかを話ができたらいいかなと思います。皆さんの意見で盛り上がってありがとうございました。

副会長 本日はありがとうございます。

民間介護事業所、高齢者事業所ですけれども経営状態について毎年収支報告の報告義務があり公表されているのでまた見ていただければと思います。物価高騰の影響もあり、経営状況がおそらく非常に厳しいような状況ではないかと思っています。

当法人もグループ全体でほとんどの事業所が赤字になってきたという状況ではあるのでまたこれからどういうふうに対応していくのという部分も出てきているかと思っています。

今後も包括支援センターのみなさまにはご協力を、お願いします。

それでは本会議終了いたします。

閉会 以上